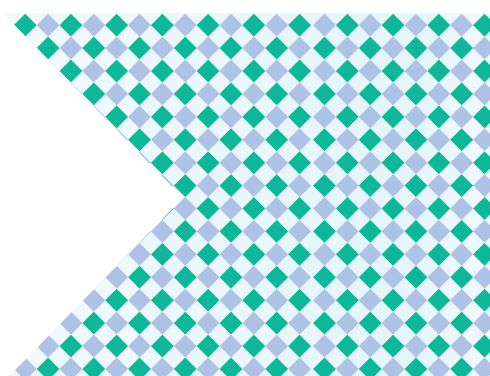


GPN Column

グリーン購入ネットワーク コラム Vol.2



法政策、基準等からみる環境

ー今、ISOの世界で議論されていることー

稲葉 敦

(GPNアドバイザー/一般社団法人日本LCA推進機構 理事長)

■はじめに

1993年にISO(国際標準化機構)にTC207(環境マネジメント)が設置されて以来、環境に関する企業の活動はこのTC(技術委員会)を構成するSC(分科会)が発行する国際標準規格に準拠してきた。たとえば、SC1が発行したISO 14001:2015(環境マネジメントシステム:PDCAサイクルが良く知られている)、SC3が発行したISO 14020:2000(環境ラベル)、SC5が発行したISO 14040:2006とISO 14044:2006(ライフサイクルアセスメント)、SC7が発行したISO 14064-2:2006(プロジェクトの温室効果ガス排出量の削減の定量化)などである。それぞれのSCに対応する国内委員会があり、その相互の情報と意見交換の場としてTC207全体の国内対応委員会が設置されている¹⁾。

最近、TC207国内委員会とは別に「環境ファイナンス関連規格検討委員会」が設置された¹⁾。TC207のSC4(環境パフォーマンス評価)でISO 14030(グリーンボンド)とISO 14100(グリーンファイナンス)の検討が始まり、SC7(温室効果ガスマネジメント)でISO 14097(気候変動ファイナンス)が活動し、また新たなTC322(サステナブルファイナンス)が設置されるなど、ファイナンス関連規格が

SC及びTCの枠を超えて動き始めたので、それらの相互関係を確認しつつ対応するためである。

筆者は、1993年の設置当初から既に25年以上ISO/TC207のSC5(LCA:ライフサイクルアセスメント)に深くかかわってきた。このコラムでは、LCAの視点から見たこれら新たなファイナンスにかかわるISOの活動の概要を記したい。さらに、これも最近設置されたTC323(サーキュラーエコノミー)の活動についても少し記したい。いずれもLCAからの偏った見方になっている可能性が高いが、ご容赦いただきたい。

■気候変動ファイナンスとグリーンファイナンス

ISO 14097(気候変動ファイナンス)は、「気候変動に関連する投資と融資活動の評価と報告のための枠組みと原則」の略称である。2016年にフランスの提案で始まった。現在(2020年8月)DIS(国際標準規格のドラフト)の投票が行われており²⁾、2021年2月頃の発行が見込まれている。気候変動に関連する投資や金融活動に係る評価や報告のための規格であり、エネルギー、自動車、鉄鋼など主要産業について投資する際に確認しなければならない事項が情

1) いずれも委員長は、東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻の松橋隆治教授である。

2) DIS(Draft for International Standard):国際標準規格の原稿。国際標準規格の作成は、WG(ワーキンググループ)が作成するWD(ワーキングドラフト)から始まり、WGが所属するSC(分科会)のCD(コミッテイドラフト)に格上げされ、各国の投票によりDISになる。さらにDISは各国投票を経てFDIS(ファイナラドラフト)となり、各国投票による最終確認が行われIS(国際標準規格)として発行される。

[続きはGPN会員専用ページからご覧いただけます。](#)